

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

|         |              |         |            |
|---------|--------------|---------|------------|
| 事業所番号   | 4072500467   |         |            |
| 法人名     | 有限会社KSカムレイド  |         |            |
| 事業所名    | グループホーム松の実   |         |            |
| 所在地     | 福岡県大川市向島2665 |         |            |
| 自己評価作成日 | 平成26年3月24日   | 評価結果確定日 | 平成26年7月14日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a> |
|----------|---|

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                   |                  |   |
|-------|-------------------|------------------|---|
| 評価機関名 | 株式会社アール・ツーエス      |                  |   |
| 所在地   | 福岡県福岡市博多区元町1-6-16 | TEL:092-589-5680 | HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a> |
| 訪問調査日 | 平成26年4月24日        |                  |   |

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

元外科医院の建物を改築して開業しているので地域との馴染みもあり、近所の方との交流もうまくいっていると感じている。大川ならではの木工祭、東洋一の昇開橋を背景とした昇開橋祭り等地域での催し物にも恵まれている。職員も地元が多く利用者も職員も方言で会話し本当に家族的な付き合いが出来ていると思える。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「生き生き、悠々と地域の中で、その人らしく過ごしましょう。」という理念をいかした家族的な雰囲気のある事業所である。昨年からは理学療法士によるリハビリにも力を入れて元気な入居者も増えてきており、玄関には施設長の手による、楽しそうなサービスの様子が描かれた味のある絵が飾られていた。バランスボールを使ったり、足踏み体操等で体力向上を目指し、敬老会では利用者が歌ったり踊ったりして楽しんで貰っている。建物が、地域に根付いた元外科医院であったことから、地域との繋がりも密接で、昇開橋祭りなど地域の祭りには皆で参加して古き良き時代を満喫する。事業所の敬老会には、地域の方たちも招待し、利用者が職員と一緒に制作した干支の縫いぐるみを贈呈して大変喜ばれている。職員の定着率も高く、一つの家族のように和気あいあいと生活を楽しんでおり、住み慣れた場所で、いつまでも元気な老後を通じて欲しいと願う施設長の思いが伝わってきて、これからの運営に、より一層の期待が膨らむ事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   | 項目  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|--|---|---|---|
| 58<br>職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:25,26,27)     | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんど掴んでいない | 65<br>職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,21)   | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 59<br>利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:20,40)           | <input type="radio"/> 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                | 66<br>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,22)                     | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 60<br>利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:40)                 | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 67<br>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 61<br>利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:38,39)  | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 68<br>職員は、生き生きと働いている<br>(参考項目:11,12)                                      | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 62<br>利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:51)                | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 69<br>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 63<br>利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている<br>(参考項目:32,33)       | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 70<br>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 64<br>利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:30) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  |   |   |

| 自己評価および外部評価結果      |     |   |  |  |  |
|--------------------|-----|---|--|--|--|
| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |  |
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |  |  |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている  | 地域密着ということで職員間で話し合い一度作った理念を考え直し現在の理念としたことで職員全員が意識するようになった。                          | 職員で話し合われた理念を各所に掲示しており、タイムカードの近くで目につくようにして読み上げてから勤務に入るようにしている。地域密着型に変わった際に地域との関わりを取り入れたものに作り変え、地域との関係を大事にしたサービスを心掛けている。   | 現任の職員は理念を理解してケアにつなげているが、パート職員などが入職した際などに、理念に込められた思いを伝えたり、改めて全体でも振り返りの機会を持たれてはどうだろうか。 |
| 2                  | (2) | 福岡県大川市向島2665<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している   | 町内会に参加することにより地域の清掃や敬老会参加している。また敬老会時には日頃の感謝も含め手作りの来年の干支人形を配っている。                    | 近隣の商店のお祭りや、町内会行事へも参加し、地域清掃は入居者も一緒に毎年行っている。事業所の敬老会には、役所の職員や地域の方も招いて行い、食事や記念品なども喜ばれ毎回恒例の催しとなっている。地域ボランティアの慰問や地域相談の受入もあり、差し入れや挨拶は日常的に交わされている。以前は地域に向けて口腔ケアの勉強会も行った。 | 地域に向けた情報発信の一環として、理学療法士によるリハビリ講習や、他施設とも共同した認知症の勉強会などの企画検討をされてみてはどうだろうか。               |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている  | 玄関に張り紙をし相談へのアピールをしている。また認知症サポーター養成講座への場所提供も行っている。                                  |  |  |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                     | 事業所からの報告の他に出席者からのいろいろな意見や情報を聞くようにしたり、地域へのお願いをするようにしている。                            | 2ヶ月毎に開催し、地域代表、行政、民生委員、家族代表などが参加されている。状況報告や行事報告などを行い、地域情報や相談ももらい、消防避難場所や徘徊時連絡に関しても話され、市からも会議運営に関してアドバイスを頂いた。外部評価結果も伝えており、活発な話し合いがなされている。                          | 会議内容を家族などとも共有して、さらに開かれた会議運営がなされていくために、会議の議事録を家族に対しても公開や閲覧、報告などされていくことに期待したい。         |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる   | 介護保険の更新申請時等市役所を訪ねるときに相談するときもある。2ヶ月に1回の運営推進会議時、相談連絡等をおこなっている。                       | 介護申請時などは窓口を訪問し、運営推進会議にも毎回参加され、毎年の敬老会にも招待している。事務長が主に担当してやりとりしており、報告や相談などもその都度行っている。以前市からの依頼で講習をしたこともあり、相互に協力関係が作られている。  |  |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 月に1度職員間で拘束について話し合い安全性を配慮しつつ拘束廃止に取り組んでいる。   | 日中は玄関施錠せず、夜間のみ防犯のため行い、外出は見守りや付き添いで自由にされている。安全管理上どうしても必要な時は行政や家族とも相談してミトンやベルトの使用があるが、定期的に経過も報告し、見直しも行っている。毎月勉強会も行い、スピーチロックに関しても話し合い、外部研修の伝達もなされていた。               |  |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃がされないよう注意を払い、防止に努めている  | 当ホームでは利用者に対して一切虐待はないと確信しておりますが尚且つ職員が虐待について学ぶ機会を持つよう理解を深めることで、虐待がおこなわれないように気をつけている。 |  |  |

H26自己・外部評価表(GH松の実)確定

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |  |
|----|------|--|--|---|--|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 8  | (6)  | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している  | 研修等勉強する機会があれば職員に出席してもらい報告、勉強会を開くようにしている。                     | 入居前から成年後見制度の利用をされていた方がおり、情報を共有している。外部研修にも職員が順番に参加して伝達し、内部研修も行って全体での理解を深めている。制度の資料もファイルに管理され、必要なときには説明も出来るように準備されている。                                |  |
| 9  |      | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている   | 契約時に利用者やご家族に説明するように努力している。                                   |   |  |
| 10 | (7)  | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | 手紙や訪問時にご家族に問いかけるようにしている。利用者には普段の声かけや会話の中から気持ちをつかむようにしている。    | 面談時やケアプランの説明時などに意見を聞き取り、遠方の家族などには電話をしたり、2ヶ月毎発行の「松の実だより」などでも報告している。意見があった時には職員で話し合い、必要であれば役所にも相談して報告している。敬老会には家族の参加も多く、その際にも全体で報告や相談を行っている。          | 隔月発行の「松の実だより」があるが、全員への配布まではされていなかったため、簡易版などで全体配布もされてはどうか。また、さらに意見を引き出していくために、満足度調査や、意見箱活用の見直しもなされることにも期待したい。 |
| 11 | (8)  | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている  | ミーティングや職員の出勤時等個人的に意見を聞くようにしている。                              | 月1回のカンファレンスでは、利用者の状態等を自由に意見交換している。ミーティングでは職員が交替でテーマを決めて事前にレポートを提出し風邪対策など時季に応じた研修会を実施している。管理者は個別な相談も含めて気軽に意見を聞いてくれるので職員の向上心が湧き、働き甲斐をもっている。           |  |
| 12 |      | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている  | 代表者は頻繁に現場に出てきて職員を理解するようにし、また職員の資格取得などには本人の意思を尊重し応援するようにしている。 |   |  |
| 13 | (9)  | ○人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員採用に関しては、性別、年齢以外に出身国も気にしないようにし、採用後は個人の特性を活かせるように配慮している。     | 20代～60代までの男女、外国籍の職員も採用されており職員間のコミュニケーションも良好である。職員の資格取得への支援にもシフトの変更などの便宜が図られている。定時制高校通学者には夜勤の免除がなされていたり、外部研修への参加も積極的に受け入れるなど、職員の自己実現の権利が最大限に保障されている。 |  |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動<br>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる   | 外部での研修会や講習会に職員を参加させるだけでなく事業所内でも研修する機会を持ち職員の理解を深めるようにしている。    | 市役所の研修や、社協主催の外部研修などに参加し、伝達も行っている。文化センターで開かれる人権関連の催しには入居者とも一緒に参加をした。行政の人権関連の資料を使ったり、講演会にも積極的に参加し、職員もローテーションで全員が参加の機会もち、事業所全体で啓発活動に取り組まれている。          |  |

H26自己・外部評価表(GH松の実)確定

| 自己                          | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|-----------------------------|------|--|---|---|-------------------|
|                             |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15                          |      | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 事業所外の研修にはできるだけたくさんの職員が参加できるように配慮し、研修で学んできた職員には必ず報告してもらい他の職員にも役立てるようにしている。 |   |                   |
| 16                          |      | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内に連絡会があり交流がもてるようになっている。また、市の懇談会等に参加するようにしている。                            |   |                   |
| <b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |      |  |   |   |                   |
| 17                          |      | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 事前面談で本人の困っていることを理解するように努めている。   |   |                   |
| 18                          |      | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | ご家族の希望していること、困っていることを聞く機会を設け、対応できる内容について話し合うようにしている。                      |   |                   |
| 19                          |      | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | 本人の必要性を見極め必要な支援ができるように努めている。  |   |                   |
| 20                          |      | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | お互いに助け合って生活しているという関係を築くように努め、作業を提供したり色々な場で感謝の言葉を伝えるようにしている。               |   |                   |
| 21                          |      | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                   | 本人の様子や要望などをご家族に伝えるように努め、またご家族の思いを伝えるようにもしている。                             |   |                   |
| 22                          | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている                                | できる範囲で馴染みの場所や自宅周辺に行く機会をもうけている。誕生日には近隣の知り合いの方に誕生会の参加を依頼している。               | 個別ケアによる行き慣れたスーパーへの買い物で顔見知り会うことや、知人が遊びに来て差し入れをもらうことがある。誕生日に家族を通して友人に声掛けして来てもらうこともあった。自宅周辺を回ったり、一時帰宅や外泊も支援し、家族と遠方へ外出もされ、温泉に行く方もおり、関係が途切れないう支援されている。 |                   |

H26自己・外部評価表(GH松の実)確定

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |   |
|------------------------------------|------|--|--|---|---|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| 23                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                                   | 利用者同士の関係を理解するようにし、トラブルを回避し、うまく交流できるように努めている。                             |   |   |
| 24                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 他の事業所に移られる際にはできるだけ情報を渡すようにし、機会があれば訪問したりしている。医療機関等に入院される場合は面会に行くよう心掛けている。 |   |   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |   |   |
| 25                                 | (12) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 日々の会話の中から思いを汲み取るようにし、言葉が困難な場合は表情や態度から思いを理解するように努めている。                    | 初回のアセスメントにセンター方式の一部を活用して、ヒアリングと家族からの記入で情報を聞き取っている。現場の職員が担当して半年ごとにケアチェック表で情報を取り直し、日頃の様子などはカンファレンスで共有している。必要時は認定調査情報なども照会している。      | 職員のアセスメントやセンター方式の理解を深めていくことで、さらにそれぞれの状態にあわせたアセスメントが充実していくことに期待したい。  |
| 26                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | ご家族の協力のもとに今までの生活歴をできるだけ詳しく知るようにしている。                                     |   |   |
| 27                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 担当を決め一人一人の理解を深めるようにしている。   |   |   |
| 28                                 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 気づきがあればその都度職員間で話し合うようにし介護に活かすようにしている。                                    | 全体でのカンファレンスによって全員分の情報を共有して気づいたことを話し合っている。担当制にしてケアプランの見直し、担当者会議、モニタリングを半年ごとに職員が受け持っている。各ユニットで全員のプランをまとめてファイルし、全職員が見えるように情報を共有している。 | 介護度の見直し時期などは担当者会議に家族に参加してもらい情報共有してはどうか。また、ケアプランの日々の目標と、実施記録を連動させることで、より詳細なモニタリングと職員のスキルアップがなされることにも期待したい。 |
| 29                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 個別の介護記録ノートに日々状態、様子を記録するようにしている。  |   |   |

H26自己・外部評価表(GH松の実)確定

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                            | 本人、家族の状況に応じて通院や送迎など、必要な支援を行い、緊急の場合も応じた対応をしている             |  |                   |
| 31 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 地域の理容院や訪問歯科と連携を図り、本人を支援している。                              |  |                   |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 以前からのかかりつけ医の継続を奨め、その関係を支援するように努めている。                      | 入所時に希望を聞くが、かかりつけ医を推奨し、通院は家族が同行している。必要に応じて看護師が同行したり電話で病状を聞く事もある。救急時は家族の意向に添って24時間対応の提携医を紹介している。5月から提携医の訪問機会も増え、日々の相談も更にしやすくなった。                           |                   |
| 33 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 体調の変化やそのほか異常が見られたときは速やかに看護師に報告するようにし、指示を仰ぐようにしている。        |  |                   |
| 34 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は情報を提供するようにし、家族とも情報の交換をおこなうようにしている。                    |  |                   |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる   | 本人や家族の意向を大事にし、医療機関とも話し合い、できるだけの支援をおこなうようにしている。            | 入所時に家族の同意をとり、看取りの受け入れを行っており、過去にも5人の看取りを実施した。24時間対応の提携医の往診体制もあり、必要時には看護師が夜間待機をして対応している。職員は他県への見学や外部・内部研修を行い、看取りの対応がとれる体制づくりも進んでいる。家族の希望で病院への救急搬送を行うこともある。 |                   |
| 36 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 緊急時対応のマニュアルを目の届く場所に掲示し対応できるようにしている。また、勉強会として消防署の指導を仰いでいる。 |  |                   |

H26自己・外部評価表(GH松の実)確定

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37                               | (16) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている           | マニュアルを作成し、事業所内で避難訓練をおこなっている。地域の方にも協力をお願いしているが、実際の訓練にも参加していただけるようにしていきたい。 | 年2回の避難訓練を実施し、内1回は消防署立ち合いで夜間想定訓練を行う。毎月1回は事業所独自の訓練も行い、AEDや消火器の実地訓練も実施されていた。非常食の備蓄も3日間分、確保され各部屋には防災袋も設置している。地域の方の訓練への参加もあり、職員が地域の防災訓練にも参加する等の体制も構築されている。           |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |  |   |                   |
| 38                               | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 日頃の援助方法や声かけ等にも自尊心に配慮するよう指導している。  | 利用者の人格を尊重し、年長者を敬う言葉かけを心掛けながら、家族とも話し合っ親しみのある呼びかけをしたり、方言や標準語など各自に合わせた心配りで言葉かけを行っている。おたより等に使用する写真掲載や、俳句の掲載などについては、個人情報に配慮して事前に同意を得るようにしている。                        |                   |
| 39                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 日々の生活の中でよりよい関係を気づくようにし、本人の思いを伝えやすいような環境作りができるよう指導している。                   |   |                   |
| 40                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人のペースを大事にし、無理強いする事のないように、可能なかぎり希望に添うようにしている。                          |   |                   |
| 41                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 本人の希望、ご家族の希望のもとに理美容院を利用してもらっている。服装も本人に任せたり、尋ねながら更衣介助するようにしている。           |   |                   |
| 42                               | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 本人の状態を考慮した食事形態であるが、そのなかでも嗜好を配慮するようにはしている。材料の下ごしらえ等にも協力してもらっている。          | 管理栄養士に献立とレシピを依頼し、調理専門の職員が調理しており、入居者も下ごしらえなどを手伝っている。職員も同じ食卓につき和やかに会話も楽しみながら食事していた。月に2回は赤飯と刺身を提供して喜ばれており、2カ月に1回は外食レクでバイキングなども楽しんでいる。花見や地域の祭りに家族も一緒に出かけて食事をする事もある。 |                   |
| 43                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 栄養士に毎月ごとの献立を作成してもらって、食事制限のある利用者の方には、その条件に合わせて提供するようになっている                |   |                   |

H26自己・外部評価表(GH松の実)確定

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |  |
|----|------|--|--|--|--|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 44 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                       | 利用者の状態に応じた介助を行うようにしている。                                      |  |  |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている       | 利用者の排泄パターンをつかみ、無理のない範囲で支援するようにしている。                          | 介護経過ノートを見て各自の排泄をチェックし、2時間毎くらいに声掛けをしてトイレ誘導を行っている。トイレ誘導によってパットの使用を減らしたり、夜はポータブルトイレを使用するなど自立に向けた取り組みを行っている。女性の利用者に配慮して女性職員が介助する等の気配りも行っている。 | 今後は、排泄チェック表の活用なども検討して、時系列での記録の把握につなげ、更なる排泄の自立支援が進められることに期待したい。 |
| 46 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                       | 排便の記録をとり、牛乳等の水分補給、繊維物、運動の提供を習慣化している。                         |  |  |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | どうしても事業所側の日時になりがちだが、その中でもできるだけ利用者の要望を聞くようにしている。              | 週3回、各自の希望を聞き、10時半～16時までは基本的に、夜間や毎日の入浴希望があれば自立の度合いを見ながら対応も行う。入浴剤やラベンダー浴、冬至などの季節湯などで工夫し、入浴を楽しんで貰えるようにしている。拒まれることは少ないが、無理強いをしないように心掛けている。   |  |
| 48 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                        | 一人一人の状態、体調や表情をみながら休息を促したり、夜間眠れないかたには昼間の日光浴、運動などを提供するようにしている。 |  |  |
| 49 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている                   | 個人毎に使用している薬の内容をファイル作成している。                                   |  |  |
| 50 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている      | 一人一人の能力、性格に合わせて作業や、レクリエーション、外出支援をおこなっている。                    |  |  |

H26自己・外部評価表(GH松の実)確定

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|--|--|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | 可能な限り利用者の希望に添うようにし、また地域の行事や催しものに出かけたり、季節ごとの風景の変化を感じていただけるよう支援している。                     | 気候が良い時は、車椅子の方も含めて、昇開橋周辺の遊歩道を毎日散歩している。地域の祭りや花見、花火大会、初詣など機会あるごとに外出レクを企画して楽しんで貰っている。買い物や郵便局などマンツーマンでの個別レクも積極的に取り入れている。                    |                   |
| 52 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | ご家族の協力のもと個人でお金を所持できるようにしている。   |  |                   |
| 53 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 本人の希望があれば電話、手紙への支援をしている。実際携帯電話所持の方もいらっしゃいます。   |  |                   |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 建物が狭いので絶えずいろいろな音や話し声、調理の匂いなどがしているが、かえってそれが安心に繋がっていると思う。また照明などは利用者や相談の上暗くしたり、明るくしたりしている | こじんまりとした中でも、利用者の居心地の良さを感じられる空間作りがなされている。浴室に隣接したベランダには利用者の布団が干してあり、裏庭も和風の立派な造りで春の光と風を浴びていた。お昼時には台所から美味しそうな匂いが漂ってきて家庭的な雰囲気になり安心感が広がっている。 |                   |
| 55 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 狭いなかでも工夫し、居場所をつくれるように工夫している。   |  |                   |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 入居されるときにできるだけ使い慣れた物を持ってきて頂き、「居室も思うようにしてください」と頼んでいるのですがなかなか難しい現状です。                     | 居室には夫々の住所が記載され、入り口の表札は自宅の住所と、本職の方が描かれた似顔絵が飾られていて、優しい心遣いが伝わってくる。利用者の希望で洋間でも和室でも自由に使い分けがされていて、使い慣れた家具などが配置されていた。                         |                   |
| 57 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 個人の状態に応じてフロアでの椅子の場所なども居室に近い場所、トイレに近い場所にしたたり、押し車を押しやすい広さを確保するようにしている。                   |  |                   |